
星と一緒に

矢口 日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星と一緒に

【Nコード】

N3861Z

【作者名】

矢口 日

【あらすじ】

走ればきつと、何かが吹っ切れる。そんな話です。

今日の私はどうだっただろうか。おかしくなかっただろうか。うまく過ごせていただろうか。

ハッと気付いた時にはもう夕暮れ時で、いつのまにかここにいた。ここはあの家だ。私には遠い家の前。きっと一度もこの家の玄関を通ることはできないだろう。そんなことは考えなくたってわかってる。わかってるのに、またここに来る。気付いたらここにいて。でも、やっぱり……。いやわすれよう。いつまでもここにいてるわけには、いけないのだ。早く行こう。ここにきてはいけないのだから。

タタタッと走って、逃げるように離れていく。今の私はかっこ悪い。とっても、かっこ悪い。それでもいいから駆けだすんだ。

ここまで離れば大丈夫。もうあの家は見えない。すごい遠くだ。もう大丈夫。……さてこれからどうしようか。走れるだけ走っていたら、ここは知らない街の中だ。いつの間にかこんなところで、来ていたのだろう。でも、あの家は見えない。大丈夫。私はゆっくり歩いて空を見上げた。今日の星も少しだけ、さみしそう光っているように見える。あの星はもしかしたら、私をずっと見ていたのかもしれない。そうだ。そうに違いない。だからさみしげに見えるのは、きっと勘違いじゃない。一人じゃない、そう思えた。そうしたら無性に、走りたくなってしまった。

「家に帰ろう。本当の家に」

私はタタタッと走って、帰ることにした。どこにあるのかはわからなかったけど、帰るべき場所というものはきつと、すぐに見つかる。

そんな気がした。

（後書き）

長い間、文章を書いていなかったのですが、久しぶりに書くことができ、とても楽しかったです。「星と一緒に」は私の最近感じることを、抽象的に絞り出したものです。ですから、あまり深く考えないで、雰囲気を感じてもらえたならば嬉しいです。

小説なのか、詩なのか私には曖昧なものに仕上がってしまいました。が、ここまで読んで頂けたなら幸いです。ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3861z/>

星と一緒に

2011年12月13日00時55分発行